

登録コード	UAA36500	開講年度	2026				
授業題目	中国語学・文学実践演習Ⅰ					担当教員	氏岡 真士
						副担当	伊藤 加奈子
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				⇔	多種多様な人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。	
(2)授業の概要	担当教員は中国文学関係の学術論文を講読し、受講生とともに必要な検討を加える。講読対象は斯界の代表的な学術誌掲載論文であり、年一回発行の同誌には先秦から近現代に至るまで、日本漢文学も含めた研究成果がバランスよく発表される。そこで最新号を中心に、受講生の方向性も加味しつつ数編の論文を選び、講読によって内容や論者の主張を理解したうえで、討論形式により批判的に検討を行なう。						
(3)授業計画	第1回： ガイダンス 第2回： 論文（先秦文学）の講読 第3回： 論文（先秦文学）の検討 第4回： 論文（漢魏六朝文学）の講読 第5回： 論文（漢魏六朝文学）の検討 第6回： 論文（隋唐文学）の講読 第7回： 論文（隋唐文学）の検討 第8回： 論文（宋元文学）の講読 第9回： 論文（宋元文学）の検討 第10回： 論文（明代文学）の講読 第11回： 論文（明代文学）の検討 第12回： 論文（清代文学）の講読 第13回： 論文（清代文学）の検討 第14回： 論文（近現代文学）の講読 第15回： 論文（近現代文学）の検討 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	受講生には論文に関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、提出資料（50%）と授業時の取り組み（50%）とを総合して判定する。得点率による評価基準は； 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	上記の観点に即して、理解度が卓越していれば秀。 理解度がかなり上にあれば優。 理解度がやや上にあれば良。 理解度が一定の水準にあれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習として資料を作成し、授業を踏まえて次の資料作成に生かすことが事後学習となる。						
(7)履修上の注意	論文中の引用文については、中国語による読解も認める。						
(8)質問,相談への対応	授業中に紹介する。						
【教科書】	『日本中国学会報』（最新号等若干冊）						
【参考書】	興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）						